

小委員会の調査報告書

<p>教科名</p>	<p>家庭科</p>	<p>委員長名 浦島俊彦</p>
<p>調査研究の経過</p>	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月1日(火)に、稚内市役所正庁で開催し、家庭科小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月2日(水)から7月13日(日)まで、「教科書見本本」、「教科書編集趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>(3) 第2回調査委員会を7月14日(月)に、稚内市役所正庁で開催し、報告書の作成を行った。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、東書、開隆堂の2者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・配列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮」について</p> <p>(4) 「その他」</p>	
<p>調査研究に当たった際の配慮事項</p>	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱い内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容、実生活・実社会に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・配列、分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・配列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的、発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 児童の学習意欲を高める工夫がなされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がなされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
<p>少数意見その他</p>	<p></p>	

様式 2

教科名		家庭科				
取 扱 内 容	出版社名	教科書名	番号	出版社名	教科書名	番号
		開隆堂	私たちの家庭5・6	9	東書	新編 新しい家庭5・6
	<p>●「A家庭生活と家族」については、第5学年において家族に協力して仕事をしたり、団らんを工夫したりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、家庭や地域で共に生きるために自分ができることを考えたりする活動を通して、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活の大切さに気付けるようになっている。</p> <p>●「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年において「カラフルゆで野菜サラダ」やご飯とみそ汁を作る活動や、第6学年において朝食に合うおかずを作ったり、栄養のバランスの良い一食分の献立を考えたりする活動を通して、食生活に関わる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるようになっている。</p> <p>●「C快適な衣服と住まい」については、第5学年において「カード入れ」や「ランチョンマット」を製作したり、冬を快適に過ごす工夫を考えたりする活動や第6学年において掃除をしたり、洗濯などの衣服の手入れをしたりする活動を通して、衣生活や住生活に関わる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるようになっている。</p> <p>●「D身近な消費生活と環境」については、第5学年において「買い物名人〇か条」を考える活動や、第5、6学年において、衣食住の生活と関連させた環境を大切にす工夫を考える活動を通して、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活の仕方についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられるようになっている。</p> <p>●知識・技術の習得、活用、探究への対応については、「カラフルゆで野菜」「ランチョンマット」など、調理や制作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習教材や、「身近な食品でおかずを作ろう」「マイバッグを作ろう」など、習得した知識・技能を活用するための具体的な活動例が取り上げられている。</p>			<p>●「A家庭生活と家族」については、第5学年において団らんのための仕事をしたり、家庭生活を工夫したりする活動や、第6学年において生活時間を工夫したり、家族の一員として家庭や地域でできることを考えたりする活動を通して、家庭生活を支えているものを理解し、家庭生活の大切さに気付けるようになっている。</p> <p>●「B日常の食事と調理の基礎」については、第5学年において「カラフルコンビネーションサラダ」やご飯とみそ汁を作る活動や、第6学年において栄養のバランスの良い朝食のおかずを作ったり、家族が喜ぶ一食分の献立を考えたりする活動を通して、食生活に関わる基礎的・基本的な知識や技能を身に付けられるようになっている。</p> <p>●「C快適な衣服と住まい」については、第5学年において「小物入れ」や「ウォールポケット」を製作したり、掃除をしたりする活動や第6学年において洗濯などの衣服の手入れをしたり、冬を快適に過ごす工夫を考えたりする活動を通して、衣生活や住生活に関わる基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられようになっている。</p> <p>●「D身近な消費生活と環境」については、第5学年においてノートの買い方を考える活動や、第5・6学年において、衣食住の生活と関連させた環境を大切にす工夫を考える活動を通して、物の選び方や金銭の使い方、環境に配慮した生活の仕方についての関心を高め、基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けられようになっている。</p> <p>●知識・技術の習得、活用、探究への対応については、「カラフルコンビネーション」「ウォールポケット」など、調理や制作の基礎的・基本的な知識・技能を習得させる実習教材や、「家族が喜ぶ食事を作ろう」「トートバッグを作ろう」など、習得した知識・技能を活用するための具体的な活動例が取り上げられている。</p>		

<p>内容の構成・配列・分量等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の構成・配列については、学習内容を17の大題材(42の小題材)で構成するとともに、「やってみよう家庭の仕事」や「手縫いで楽しい小物の製作」などの基礎的な学習をした後に、「栄養のバランスの良い食事作り」や「生活を楽しむ布製品の製作」など基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を扱うなど、2年間を通して、系統的・発展的に学習することができる工夫がなされている。 ●内容の分量については「A家庭生活と家族」は21ページ、「B日常の食事と調理の基礎」は38ページ、「C快適な衣服と住まい」は52ページ、「D身近な消費生活と環境」は4ページであり、総ページ数は114ページで、前回より約5%増となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の構成・配列については、学習内容を14の大題材(42の小題材)で構成するとともに、「だんらんのための仕事」や「手ぬいで生活を楽しむ小物の製作」などの基礎的な学習をした後に、「家族が喜ぶ食事づくり」や「生活に役立つ布製品の製作」など基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習を扱うなど、2年間を通して、系統的・発展的に学習することができるような工夫がなされている。 ●内容の分量については、「A家庭生活と家族」は19ページ、「B日常の食事と調理の基礎」は42ページ、「C快適な衣服と住まい」は59ページ、「D身近な消費生活と環境」は11ページであり、総ページ数は130ページで、前回より約15%増となっている。
<p>使用上の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境」「消費」「防災」などのマークや「参考」「発展」などのコラム欄によって、興味・関心を持たせたり、学習の目当てや課題、振り返りを枠組みで掲載し、学習の見通しを持たせたりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ●実施している児童の目線で写した写真や挿絵等を掲載し、必要に応じて調べさせたり、「チャレンジコーナー」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことにより、実践的な態度を育てることができるような工夫がなされている。 ●レイアウトや配色を工夫するとともに、2年間の学習の見通しや振り返りに活用するため巻頭に「家庭科の学習」、巻末に「成長した私たち」を掲載したり、実習、実験における安全や衛生に留意しながら学習を進めるため「安全」マークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「環境」「日々の備え」「日本の伝統」などのマークや「資料」「プロに聞く」などのコラム欄によって、興味関心をもたせたり、ワークシートを掲載し、学習活動を促したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ●「いつも確かめよう」として写真や挿絵でまとめて掲載し、必要に応じて調べさせたり、「自由研究」を示し、長期休業中における家庭と連携を図った活動を促したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことにより、実践的な態度を育てることができるような工夫がなされている。 ●字体や配色を工夫するとともに、2年間の学習の見通しや振り返りに活用するため巻頭に「家庭科を学ぼう」「成長の記録」、巻末に「これからの私たち」を掲載したり、実習、実験における安全や衛生に留意しながら学習を進めるため「安全」マークを示したりするなど、使用上の便宜が図られている。
<p>その他</p>		